

# サラエボに出勤へ

## 防護軍が戦車部隊など配置 指 令

【ジュネーブ23日補原直】国連防護軍は二十三日午前十時(日本時間同午後五時)、ボスニア・ヘルツェゴビナの首都サラエボにお

は新たな局面に突入した。サラエボの国連防護軍本部によると、緊急対応部隊はボスニア中部のゴルニバコフなど三都市に常駐しており、砲兵部隊を中心に、戦車、ヘリコプターなどがサラエボに出勤。セルビア人勢力の攻勢に対し、現地

「すし」が顕在化。米政府、ボスニア政府からの「セルビア人勢力寄り」との批判と国連の威信低下の中で、仲介役としての明石氏は、大きな足かせをはめられることになる。



明石 康特別代表

# 明石氏、一層窮地に 空爆への拒否権奪われ

【ジュネーブ23日補原直】ボスニア・ヘルツェゴビナ情勢に関するロンドンで開催の国連外相・国防相会議をきっかけに、明石康・国連事務総長特別代表が一層厳しい立場に追い込まれた。北大西洋条約機構(NATO)軍の空爆決定がプロセスから排除する「明石は

明石氏の「指揮権」を奪わんとする動きは、六月の英仏による緊急対応部隊創設の時点からあった。当初、欧米諸国は「指揮権は現地司令官が握る」として、国連防護軍を指揮する明石氏とは別の指揮系統を求めた。しかし明石氏は反発、「指揮系統と運営方法には慎重であるべきだ」と声明を出し、結局国連の指揮下に落ち替いた経緯がある。

またボスニア政府は以前から明石氏を批判。十二日には、国連指定安全地域スレブレニツァ陥落の責任が辞任を要求している。このためロンドン会議の決定により、明石氏が四面楚歌の状況に追い込まれたのは間違いない、というのが国連筋の一致した見方だ。現地に駐在する特別代表として、国連平和維持活動のなかめであるだけに、明石氏のきわどい綱渡りがしはらぐ続きそうだ。

NATOが空爆候補地など検討  
ブリュッセル23日谷口

【ジュネーブ23日補原直】NATOはロンドン会議を受け、空爆を中心とした二十二日からボスニアの国連指定安全地域、ゴラジニツァ防衛策定に入った。二十三日に軍事委員会が激踏め、二十四日に正式に理會会を開き、承認する見通いだ。セルビア人勢力の砲撃、司令部などが空爆の標的候補に挙げられているとみ